

由良川の近年の度重なる洪水被害の発生を受けて、福知山河川国道事務所では精力的に治水対策を進めています。今回土木学会水文部会の全国各地の大学教員と学生計20名を迎え、由良川上流部に位置する大野ダム（府管理）、中流部における緊急的な治水対策や福知山市街地における総合的な治水対策（国・府・市）の現場を視察していただきました。

大野ダムでは、治水容量の増加を目的としてダム貯水位を最低水位以下に下げる試験放流の紹介がありました。また中下流部では、宅地高上げ・輪中堤や連続堤の築堤・排水機場新設工事の進捗状況を見学されました。さらに治水記念館や全国唯一の堤防神社など治水にまつわる施設も訪問し、由良川をより詳しく知っていただく良い機会となりました。

## 視察概要

- 開催日時 令和元年10月31日(木) 13:00-16:00  
令和元年11月1日(金) 9:00-13:00
- 場所 内水被害（河守・公庄地区）、宅地高上げ（下天津地区）、連続堤（川北地区）、内水対策（弘法川排水機場、法川排水機場）、大野ダム、堤防神社、治水記念館
- 参加者 土木学会水文部会所属の大学教員と学生計20名
- 説明者 福知山河川国道事務所、京都府、福知山市



▲大野ダムでの集合写真



▲河守・公庄地区での説明



▲弘法川排水機場の工事現場



▲川北地区の連続堤築堤現場



▲法川排水機場



▲堤防神社の浸水位碑前にて

## 参加者の感想

- 由良川流域が洪水に対し脆弱であることや、治水対策の必要性が良く理解できた。
- 新設堤防の工事現場やダムの試験放流などを見ることができ、貴重な経験になった。